

名前：

新聞や雑誌はインターネットが普及した後も依然として必要であると考えます。確かにインターネットを通じて情報、特にニュースを得ることができるようになり、新聞や雑誌に触れる回数は減ったかもしれませんが、しかし、実際、自分も含めて周りを眺めると新聞や雑誌は倒産せずに生き残っているし、新聞を片手に通勤する人も頻繁に見掛ける。それでは何故、インターネットと新聞・雑誌が平行して普及できているのか。両者の必要性を論じてみたいと思う。

まず、インターネットにおいては当然その情報量、利便性、敏達性により人々に必要とされている。一ヶ所に居ながら世界中の情報を瞬時に得ることができ、大変便利である。しかし他方で誰でも手軽にアクセス可能という媒体であるが故、中には間違えた情報も含まれているという危険性がある。

それでは、新聞と雑誌についてはどうだろうか。確かにインターネットに比べ、情報の

伝達は遅いかもしれないが、読み取りやすい活字で書かれ、持ち運ぶのも実に便利である。また、経済新聞やファッション雑誌等、ジャンル分けがされているので自分の求める情報を一紙・一誌でまかなえることができるという利点がある。

インターネットも瞬時に求める情報を得られるのではないかと、という反論があるかもしれないが、視覚的に「ひとつ」の冊子になっている点が新聞や雑誌は消費者にとって魅力的に映るのだ。言い換えると、インターネットはパソコンを立ち上げる必要があるが、新聞・雑誌は町中の店頭で容易に買い求めることができる。この上、インターネットでは極集約の情報の収集が基本だが、新聞・雑誌は必然的に周りの記事も目に入り、思いもよらない新しい情報を得られる機会があるので。

従って、インターネットと新聞・雑誌は決して同じ部類の情報媒体ではないと私は考える。この点からも両者は共に必要とされると思う。

1800字